

鳥類



カワウ

- 生物分類：カツオドリ目ウ科ウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：ぼくちゃん
- 撮影場所：神田川
- 撮影日：2020年6月

神田川や池の周りでほぼ一年中見られます。主に魚を丸飲みにして食べます。上野の不忍池では、ねぐらや繁殖地として利用する集団が見られます。



コゲラ

- 生物分類：キツツキ目キツツキ科アカゲラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：あさ
- 撮影場所：動坂公園
- 撮影日：2020年8月2日

日本に生息するキツツキで最も小さい種です。樹林地で主に昆虫類を食べます。元々は森林で見られる鳥でしたが、近年では市街部でも見られるようになりました。



アオサギ

- 生物分類：ペリカン目サギ科アオサギ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年5月26日

「蒼鷺」と書き、青みがかった灰色の姿をした大型のサギです。神田川や池の周りでほぼ一年中見られ、小魚やエビ、カエルなどを食べます。



ホトトギス

- 生物分類：カッコウ目カッコウ科カッコウ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2016年5月26日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。春に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われま



サシバ

- 生物分類：タカ目タカ科サシバ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：絶滅危惧Ⅱ類（VU）*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2016年7月30日

日本では夏に里山で繁殖するタカの仲間です。秋の渡りの時期の前に、区内でたまたま羽を休めに来た個体と思われま

- 生物分類：スズメ目カササギヒタキ科サンコウチョウ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：絶滅（EX）*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2017年5月14日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。さえずりが「月・日・星（ツキ・ヒ・ホシ）、ホイホイホイ」と聞えることから、三光鳥と呼ばれています。春に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われま



サンコウチョウ

鳥類



ツバメ

- 生物分類：スズメ目ツバメ科ツバメ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年7月16日

日本には夏に飛来して繁殖します。飛行しながら昆虫類を捕食したり、水を飲んだりします。



ムクドリ

- 生物分類：スズメ目ムクドリ科ムクドリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年3月15日

都市部でよく見られる鳥です。しばしば集団を形成するので、糞や騒音による被害が問題視されることがあります。



コマドリ

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科ノゴマ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年4月13日

夏に比較的涼しい山地に飛来して繁殖します。さえずりが「ヒンカララ…」と馬の鳴き声に似ていることから、駒鳥と呼ばれています。春に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われれます。



キビタキ

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科キビタキ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年5月15日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。オスは美しい黄色を帯びた配色をしています。春に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われれます。



オオルリ

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科オオルリ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2017年4月17日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。オスは美しいルリ色をしています。春に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われれます。



ハクセキレイ

- 生物分類：スズメ目セキレイ科セキレイ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2018年6月17日

都市部でもよく見られる鳥です。写真は、幼鳥（左）に親鳥（右）が餌をあげているものです。餌の取り方を教えている所なのかもしれません。

爬虫類



クサガメ

- 生物分類：
カメ目イシガメ科イシガメ属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：
情報不足 (DD) *1
- 撮影者：ゆな
- 撮影場所：湯島天満宮
- 撮影日：2020年5月23日

神田川や池の周りで見られます。臭い匂いを発することから臭亀と呼ばれます。18世紀頃に朝鮮半島、大陸中国から人為的に移入されたと近年言われています。



ニホンヤモリ

- 生物分類：
有鱗目ヤモリ科ヤモリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) *1
- 撮影場所：東京ドームシティ
- 撮影日：2020年5月21日

主に民家周辺に生息し、昆虫類を捕食するために夜間に灯火の近くで見かけることがあります。日中は、石や木の隙間などに隠れています。冬季は休眠します。

- 生物分類：
有鱗目ナミヘビ科ナメラ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
準絶滅危惧 (NT) *1
- 撮影者：
のりたま
- 撮影場所：
肥後細川庭園
- 撮影日：
2020年5~6月



アオダイショウ

アオダイショウは樹上性が強いヘビですが、森林周辺のほか、田んぼや小川でも見られます。日本で最も大きくなるヘビです。



アオダイショウ

- 生物分類：
有鱗目ナミヘビ科ナメラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
準絶滅危惧 (NT) *1
- 撮影者：ぼくちゃん
- 撮影場所：神田川
- 撮影日：2020年6月

アオダイショウの体色は変異が多いですが、写真は幼蛇で、梯子状に褐色の斑紋が入るのが特徴です。幼蛇はマムシと間違われることがあります。無毒です。



シマヘビあるいはアオダイショウ (ナミヘビ科の一種)

- 生物分類：
有鱗目ナミヘビ科ナメラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
シマヘビ 絶滅危惧 IA 類 (CR) *1
アオダイショウ 準絶滅危惧 (NT) *1
- 撮影者：ぼくちゃん
- 撮影場所：神田川
- 撮影日：2020年6月

体色は変異が多いため、両者を確実に識別するポイントは目の色になります。シマヘビは赤色、アオダイショウはオリーブ色の目をしていますが、今回の写真からはそこまで確認できません。



ニホンカナヘビ

- 生物分類：
有鱗目カナヘビ科カナヘビ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) *1
- 撮影者：じゅん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2020年7月24日

草地や民家周辺などの開けた所に生息し、主に昆虫類を食べます。体温調節のために日光浴している姿を見かけることがあります。冬季は休眠します。

両生類



アズマヒキガエル または ニホンヒキガエル

- 生物分類：無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：アズマヒキガエルは準絶滅危惧 (NT) *1
- 撮影者：みっちー
- 撮影場所：自宅
- 撮影日：2020年8月

林に棲み、池や田んぼに産卵します。東京都にはアズマヒキガエルが棲んでいましたが、近年、西日本からの国内由来の外来生物であるニホンヒキガエルとの交雑が懸念されています。今回の写真は幼体ですが、両種の違いを識別する鼓膜の特徴が見えないので種の特定はできません。

昆虫類



アオモンイトトンボ

- 生物分類：トンボ目イトトンボ科アオモンイトトンボ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：メイクレフイ
- 撮影場所：マンションのバルコニー
- 撮影日：2020年7月21日

お尻が鮮やかな空色をしているのが名前の由来です。お尻の先端が黒いのも、他種と識別するポイントです。平地の池や沼などの水辺でよく見られます。

- 生物分類：トンボ目ヤンマ科ミルンヤンマ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：情報不足 (DD) *1
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：小日向
- 撮影日：2020年5~6月



ミルンヤンマ

丘陵地~山間部の沢でよく見られるトンボです。肥後細川庭園や小石川植物園などからたまたま飛んできたのかもしれない。



オオシオカラトンボ

- 生物分類：トンボ目トンボ科シオカラトンボ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：肥後細川庭園 松聲閣
- 撮影場所：肥後細川庭園
- 撮影日：2020年6月

シオカラトンボよりも少し大きく、色が濃いのが特徴です。成熟したオスの表面が青白い粉で覆われる姿から“シオカラ”の名がつけました。メスは黄色をしています。



オオシオカラトンボ

- 生物分類：トンボ目トンボ科シオカラトンボ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：そひい
- 撮影場所：千駄木
- 撮影日：2020年8月11日

開けた水辺環境を好むため、市街地の水辺でもよく見られます。千駄木だと、須藤公園や根津神社の池を拠点にしているかもしれません。



アキアカネ

- 生物分類：トンボ目トンボ科アカネ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：TAKU
- 撮影場所：本郷給水所公苑
- 撮影日：2020年6月14日

一般に“赤とんぼ”と呼ばれるトンボです。写真は羽化したばかりなので、まだ色は赤くありません。夏に涼しい山地へ移動し、秋になると平地に戻ってきます。



アブラゼミ

- 生物分類：カメムシ目セミ科アブラゼミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：M.M.
- 撮影場所：竹早公園
- 撮影日：2020年7月27日

区内で最も一般的なセミです。成虫になるまで地中で4~6年を過ごします。夏の夕方地面から這い出して、夜間に羽化します。



アブラゼミ

- 生物分類：カメムシ目セミ科アブラゼミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2020年8月23日

セミの抜け殻は、その土地の環境の状態を知る手がかりになります。セミの抜け殻が見つかるのは、樹木があり、土が程よく湿って柔らかいところです。



ミンミンゼミ

- 生物分類：カメムシ目セミ科ミンミンゼミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：ともさん
- 撮影場所：自宅のバルコニー外壁
- 撮影日：2020年7月31日

「ミンミンミンミンミー」と鳴くセミで知られていますが、鳴くのはオスだけです。東日本では平地で見られ、西日本では山地で見られることが多いです。幼虫は街路樹などの乾燥した土壌でも生きていけるため、都市部でも見ることができます。



ミンミンゼミ

- 生物分類：カメムシ目セミ科ミンミンゼミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：ほくちゃん
- 撮影場所：教育の森
- 撮影日：2020年7月

ミンミンゼミは羽化時に翅(はね)が透明になります。アブラゼミは羽化時に翅が白く濁った感じになります。だんだんと翅が広がっていき、白い体が色づいていく姿は感動的です。



アオドウガネ
2020年6月22日

アオドウガネ

- 生物分類：コウチュウ目コガネムシ科スジコガネ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：土谷香翔
- 撮影場所：千駄木
- 撮影日：2020年6月

緑色の金属光沢をしたコガネムシの仲間です。庭や公園の樹木・草などでよく見られます。元々は西日本に多く分布していましたが、近年は分布が北上し、関東地方でも多く見られるようになりました。



ゲンジボタル

- 生物分類：コウチュウ目ホタル科ホタル属
- 由来：国内由来の外來種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧IB類(EN)*1
- 撮影者：Saku
- 撮影場所：大塚6丁目
- 撮影日：2020年6月

日本で最も親しまれているホタルです。区内で見られるのは放流された個体ですが、本来は、岸が土でできている、水がきれいな川の周辺に生息しています。

昆虫類



ナナホシテントウ

- 生物分類：
ゴウチュウ目テントウムシ科 *Coccinella* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：栗田 洋
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年3月15日

きれいな赤色の翅に7つの黒い紋がある、最も普通に見られるテントウムシの一つです。成虫・幼虫ともにアブラムシを食べます。



クワカミキリ

- 生物分類：
ゴウチュウ目カミキリムシ科クワカミキリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：sirop
- 撮影場所：教育の森公園
- 撮影日：2020年6月21日

大型のカミキリムシで、体色は地色が黒ですが、細かい毛が生えているために黄灰色に見えます。クワやイチジクなどを好んで食べ、農林業の害虫とされています。



オオセイボウ

- 生物分類：
ハチ目セイボウ科オオセイボウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
情報不足 (DD) *2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年7月24日

青緑色に輝く美しいハチで、大青蜂 (オオセイボウ) と書きます。成虫は花の蜜を吸いますが、幼虫はスズバチなどの巣に寄生して成長します。



ツマキチョウ本土亜種

- 生物分類：
チョウ目シロチョウ科ツマキチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年4月13日

早春にだけ見ることができる白いチョウです。翅の先端が橙色なのがオスで、灰色なのがメスです。後翅の裏は草すり模様になっています。幼虫はアブラナ科の植物を食べます。



ピロードハマキ

- 生物分類：
チョウ目ハマキガ科 *Cerace* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：中山 真美
- 撮影場所：自宅ベランダ
- 撮影日：2020年6月21日

幼虫が葉を巻いたりして巣を作るハマキガの仲間です。閉じた翅も十分に美しいですが、開いた翅にも別の美しさがあります。



オオミズアオ本土亜種

- 生物分類：
チョウ目ヤマムユガ科 *Actias* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
絶滅危惧II類 (VU) *1
- 撮影者：栗田 洋
- 撮影場所：本郷4丁目
- 撮影日：2020年5月16日

大型で美しい蛾です。幼虫は色々な樹木の葉を食べるので、都心でも見かけることがあります。

昆虫類



オオミズアオ本土亜種

- 生物分類：
チョウ目ヤマムコガ科 *Actias* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) *1
- 撮影者：鈴木
- 撮影場所：真砂図書館読書スペース
- 撮影日：2019年6月1日

灯火によく飛来するので、図書館の光に寄せられて来たのかもかもしれません。



ウンモンズズメ

- 生物分類：
チョウ目スズメガ科 *Callambulyx* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：ももちゃん
- 撮影場所：動坂公園
- 撮影日：2020年4月

雲紋雀(ウンモンズズメ)と書き、翅の模様が美しいスズメガです。幼虫はケヤキなどの葉を食べるので、雑木林の周辺で見られます。灯火によく飛来するので、朝方に灯火の近くにいるのを見かけることがあります。



オオスカシバ

- 生物分類：
チョウ目スズメガ科オオスカシバ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影場所：湯島4丁目
- 撮影日：2019年9月6日

成虫の翅が大きく透明であることから大透翅(オオスカシバ)と呼ばれます。幼虫はクちなシを食草としています。



キアシドクガ

- 生物分類：
チョウ目ドクガ科 *Ivela* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：いすず
- 撮影場所：白山4丁目第二児童遊園
- 撮影日：2020年5月23日

成虫の脚が黄色いことから黄脚毒蛾(キアシドクガ)と呼ばれます。ドクガの名がついていますが、幼虫から成虫まで毒はありません。



ナミアゲハ

- 生物分類：
チョウ目アゲハチョウ科アゲハチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：大石
- 撮影場所：自宅ベランダ
- 撮影日：2020年6月17日

最もなじみが深いチョウの1つです。幼虫は、ミカンなど柑橘類の葉を食べます。



クロアゲハ本土亜種

- 生物分類：
チョウ目アゲハチョウ科アゲハチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2020年8月21日

区内で黒くて大きいアゲハチョウがいたら、ほぼ本種(クロアゲハという種)です。幼虫は、ミカンなど柑橘類の葉を食べます。

エビ・カニ類



サワガニ

- 生物分類：
エビ目サワガニ科サワガニ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：留意種(*)*1
- 撮影者：肥後細川庭園 松聲閣
- 撮影場所：肥後細川庭園
- 撮影日：2020年6月

湧水など水がきれいで、岩陰などの隠れる場所がある所に棲んでいます。昆虫類や藻類など何でも食べます。冬は穴の中や岩陰などで冬眠します。

種子植物類



ドクダミ

- 生物分類：
コショウ目ドクダミ科ドクダミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影場所：
湯島1丁目、本郷通沿いの植え込み
- 撮影日：2020年5月27日

遍った所に生え、しばしば群生します。独特の匂いがありますが、毒はなく、生薬としてよく利用されています。



カワラナデシコ

- 生物分類：
ナデシコ目ナデシコ科ナデシコ属
- 由来：園芸品種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：Daichi
- 撮影場所：白山
- 撮影日：2020年6月

原種は「河原に生える可憐な花(撫子)」を意味するよううに、美しい花を咲かせるので、江戸時代の頃から園芸品種が開発されてきました。



ムラサキツメクサ

- 生物分類：
マメ目マメ科シャジクソウ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影場所：本郷給水所公苑
- 撮影日：2020年6月10日

牧草用として明治以降に移入されたヨーロッパ原産の外来種です。梱包用の詰め物として用いられたことから詰草(ツメクサ)と呼ばれ、紫色の花を咲かせます。



サンショウ

- 生物分類：
ムクロジ目ミカン科サンショウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：よねさん
- 撮影場所：大塚6丁目 路上
- 撮影日：2020年7月20日

独特な爽やかな香りを持ち、香辛料に使われます。英名ではジャパニーズ・ペッパー (Japanese pepper) と呼ばれています。



ムラサキカタバミ

- 生物分類：
カタバミ目カタバミ科カタバミ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：JASON
- 撮影場所：教育の森公園
- 撮影日：2020年4月10日

江戸時代末期に観賞用として導入された南アメリカ原産の外来種です。栄養繁殖(種子を経由しないクローン繁殖)が旺盛で、駆除が困難な雑草です。

種子植物類



オニタビラコ

- 生物分類：キク目キク科オニタビラコ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影場所：久堅公園
- 撮影日：2020年6月9日

道端や空き地、庭などによく生えている雑草です。タンポポのように、茎や葉を傷つけると白い乳液が出ます。



ハハコグサ

- 生物分類：キク目キク科ハハコグサ属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：-
- 撮影場所：文京シビックセンター
- 撮影日：2020年6月11日

春の七草の1つ御形(ごきょう)のことです。日当たりのよい道端や空き地、田んぼなどによく生えています。



ミョウガ

- 生物分類：ショウガ目ショウガ科ショウガ属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：よねさん
- 撮影場所：大塚6丁目
- 撮影日：2020年7月20日

薬味として馴染の深い植物です。種子を経由しない栄養繁殖で増えます。かつて茗荷谷駅の界隈では茗荷畑が広がっていました。

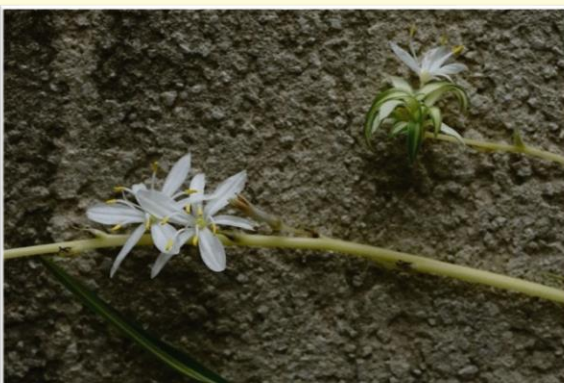
- 生物分類：ユリ目ユリ科ユリ属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：DAICHI
- 撮影場所：白山
- 撮影日：2020年7月



ヤマユリ

山地に生える日本特産のユリで、白く美しく大きい花を付けるので観賞用に人気があります。半日陰で水はけと風通しの良い場所を好みます。

シダ植物類



オリヅルラン

- 生物分類：キジカクシ目キジカクシ科オリヅルラン属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：よねさん
- 撮影場所：大塚6丁目
- 撮影日：2020年7月5日

観葉植物として育てやすいので人気があり、よく栽培されています。アフリカ原産です。



スギナ

- 生物分類：トクサ目トクサ科トクサ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：栗田 洋
- 撮影場所：小石川後楽園
- 撮影日：2020年3月15日

ツクシはスギナというシダ植物の胞子茎のことです。地上部が杉に似ており、ツクシが食用されることから杉菜(スギナ)と呼ばれます。

菌糸類



テングタケ属の一種

- 生物分類：
ハラタケ目テングタケ科テングタケ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：教育の森公園
- 撮影日：2019年9月頃

テングタケ科のキノコのほとんどは、菌根菌と呼ばれる植物の根に着生して共生するタイプです。単生もしくは散生で発生します。テングタケ科のキノコの多くは毒キノコです。



キツネタケ属の一種

- 生物分類：
ハラタケ目
ヒドナンギウム科キツネタケ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：肥後細川庭園
- 撮影日：2020年6月23日

キツネタケ属のキノコのほとんどは、菌根菌と呼ばれる植物の根に着生して共生するタイプです。キツネタケ属のキノコには可食のものもありますが、毒は不明のものも多く、あまり食用にはされません。



ムジナタケ

- 生物分類：
ハラタケ目
ナヨタケ科ムジナタケ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：教育の森公園
- 撮影日：2019年11月5日

有機物を分解して生きる腐生菌で、道端や庭先、草地、林内などで見られます。名はタヌキ(ムジナ)の毛皮を思わせる見た目に由来します。可食とされていますが、人によってはアレルギーの危険性があります。

- 生物分類：
ハラタケ目ハラタケ科ハラタケ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：江戸川公園
- 撮影日：2020年5~6月



ハラタケ属の一種

ハラタケ属のキノコのほとんどは、菌根菌と呼ばれる植物の根に着生して共生するタイプです。ハラタケ属には毒をもつ種もあるので、注意が必要です。



アラゲキクラゲ

- 生物分類：
キクラゲ目キクラゲ科キクラゲ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：肥後細川庭園
- 撮影日：2020年6月23日

木材腐朽菌と呼ばれる腐生菌の一種で、様々な広葉樹の枯れ木などで見られます。食用になり、栽培されています。



ヒイロタケ

- 生物分類：
タマチョレイタケ目
タマチョレイタケ科シュタケ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：-
- 撮影者：のりたま
- 撮影場所：江戸川公園
- 撮影日：2020年6月23日

木材腐朽菌と呼ばれる腐生菌の一種で、主に広葉樹の枯れ木で見られます。無味無臭ですが非常に硬く、食用にはされません。

＜重要種とは＞

固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術性などの観点から重要と考えられる生物種を“重要種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“重要種”として選定しています。

＜重要種の 카테고리＞

レッドデータブック (東京都区部) *1	レッドリスト (環境省) *2	基本概念
絶滅 (EX)	絶滅 (EX)	既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
—	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
留意種 (*)	—	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの

*1:「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(東京都、平成 25 年 3 月) の区部に該当する掲載種

*2:「環境省レッドリスト 2020」(環境省、2020)

＜外来種とは＞

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物種を“外来種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“外来種”として選定しています。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号) に基づき指定された特定外来生物
- ②国立研究開発法人国立環境研究所「侵入生物データベース」に掲載の生物種

本アルバムでは、上記の“外来種”に該当しない種の由来については下記の定義をしています。

- ・園芸品種：人為的に改良された品種として植えられたもの
- ・植栽種：人為的に植えられたもので、園芸品種として判別できなかったもの
- ・逸出種：人為的に植えられたり飼育されたりしたものから逸出したと考えられるもの
- ・不明：種が特定できないものや、種の由来に諸説あるものなど

文京区資源環境部環境政策課

〒112-8555 文京区春日一丁目 16 番 21 号

電話 03 (5803) 1276

文の京生きもの写真館 ホームページ

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bosai/kankyo/jouhou/ikimonosyasinkan.html>